

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 天籟寺 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	領域別に正答率をみると、「聞くこと・話すこと」や「書くこと」領域は、全国平均より15%以上低い。特に「書くこと」では、『何を書けばよいか』という問題文の理解ができていない傾向がみられた。文章をよく読んでその意味を正確に理解することが求められる。また、知識・理解の中では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が課題となっていた。意味を理解している語彙が少ないことが伺われた。
	よくできた問題	物語文を読んで、主人公の気持ちや登場人物の関係などを捉える問題。
	努力が必要な問題	人が書いた意見文を読んでそのよい点を書く問題は、正答率が約20%であった。どのような点が良いのかは、ヒントの文章があるのだが、それを読み取ることができていないと考えられる。他に「反省」「親しむ」という漢字の問題。
算数	全体的な傾向や特徴など	領域別に正答率をみると、「数と計算」のみ、県や全国平均を上回っている。現6年生は、昨年3学期より「もく算タイム」の取組を試験的に行ったことは、プラスに働いていると思われる。「データの活用」などとしての円グラフや表の読み取りは、正確であった。割合を使って解く「変化と関係」領域には、課題が大きい。
	よくできた問題	円グラフや表の読み取り問題。これは全国平均を10%ほど上回った。他には正三角形をつくるプログラミング問題。
	努力が必要な問題	全国平均を24%下回ったのは、百分率で表された割合ともどにする量から比べる量を求める問題。他には、ひし形をつくるプログラミングの問題。これは、ひし形の性質の理解に課題があると考えられる。
理科	全体的な傾向や特徴など	3教科で、最も結果がよかったと言える。正答率を領域別にみると、「エネルギー」「粒子」「地球」を柱とする領域は、平均かそれを上回っているが、「生命」を柱とする領域は、-8%で最も低かった。「生命」は3年生時に学習した昆虫の問題であったが、その特徴や飼育・観察の仕方の理解が不足していた。
	よくできた問題	夜の気温の変化について、朝から昼の記録の結果を表したグラフや他者の予想を参考に見通す問題。
	努力が必要な問題	「飼育しているナナホシテントウの観察記録」についての問題。『昆虫の特徴などを忘れてしまっている。』『実際に観察経験がない。』といった原因が考えられる。また、条件を考えて分類することに課題がみられた。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>全般には、1日に1時間以上読書をする児童は、全国の4倍であった。地域行事への参加も積極的であることが分かる。学校での学習活動では、「PC/タブレットを使用して学習している」は、『ほぼ毎日』が全国平均の4倍となっている。また、自分の考えを発表する場面では、「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表した」は、全国の2倍となっている。このようなことから、本校の学習では、ICT機器をよく活用しており、児童にその活用力が身に付いていることや機器活用に限らず、自分の考えを発表する場面を多くもち、聞き手に分かりやすく発表しようという意識が高まっていることが伺われる。また、学んだことを生かしながらまとめる活動は、全国の1.5倍ほど行っていると回答されており、ノートや新聞づくりなどで単元のまとめを積み重ねている実践をしていることが表れていた。課題としては、「先生は、よい所を認めてくれますか」がポイントが低めであった。</p> <p>家庭での生活については、寝たり起きたりする時間は安定しているが、「朝食を食べる」割合が全国より10%低い。他には①1日当たりテレビゲーム(携帯・スマホも含め)を3時間以上する児童は、全国より8%高い。また、全くしない児童は全国では10%であるが、本校は0%であった。②①と同様で動画を見ることが2時間以上の児童は全国より12%高い。③学校以外で月～金曜日に1日当たり勉強している時間(塾なども含む)は、1時間以上では、約20%低い。このようなことから、家庭学習の時間を増やすことができるような工夫が課題と言える。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語科に顕著な課題が認められたため、本年度は主題研究を「読むことが楽しくなる国語科指導の研究」とし、叙述の言葉にこだわり、語彙の獲得や意味の広がりを知る楽しさを体験する国語科指導を目指した。

② 家庭生活習慣等に関する取組

スマホや携帯の使い方については、啓発のチラシや資料を保護者に配布した。2月には、スマホ・携帯教室を実施する予定である。実際に使用時間を見直すような工夫を模索中である。また、家庭学習の時間的定着を図るために、ある程度の宿題の分量を確保することや宿題チェックをしてきた。今後は目安の時間を10分×学年として、保護者に啓発を繰り返し、家庭学習習慣が身に付くような取り組みを計画する必要がある。
